

unicef 
for every child

ユニセフ年次報告 2016



ユニセフ年次報告 2016

目次



02

事務局長のメッセージ



10

1. すべての子どものために 成果を

人道支援	13
保健	21
HIV/エイズ	26
水と衛生	30
栄養	35
教育	40
子どもの保護	45
社会へのインクルージョン	49
ジェンダーの平等	54



58

2. すべての子どもに
必要不可欠な物資を



04

はじめに



62

3. 財政管理とパートナーシップ

事務局長のメッセージ

2016年、ユニセフは子どもたちの命と未来を守るため、目に見える成果を出すことを重視し、粘り強く努力を重ねました。最も支援を必要としている子どもたちとその家族の命を救うために、有効性の実証された支援を届けることに注力しました。

どんな子であろうと、どこに住んでいようと、どんな環境にあらうと、そしていかなる障壁があろうと、すべての子どもたちのために活動する。それがユニセフの使命です。

この使命を達成するためには、一年一年が重要です。そしてユニセフが創設70周年を迎えた2016年は、過去を振り返り、改めてその教訓を現在の課題に活かすうえで大切な年となりました。

2016年、紛争や自然災害、感染症の爆発的な広がりなどの緊急事態の影響を受ける国で暮らす子どもは、約5億3,500万人にもものぼりました。5,000万人近くの子どものが、住み慣れた土地を追われました。さらに約3億8,500万人の子どものが、極度の貧困生活を強いられました。何百万人もの子どものが差別され、社会から取り残されました。こうした課題はどれも、ユニセフ70年の歴史の中でも特に深刻なものでした。

一方、2016年は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、国際社会が本格的なスタートを切った年でもありました。SDGsは、極度の貧困や飢餓の撲滅、質の高い教育の完全普及、地球環境の保護、平和で誰もが受け入れられる社会の実現などを含む志の高い目標で、「誰ひとり取り残さない」ことを方針として掲げています。

すなわちこれは、あらゆる社会の、最も脆弱で苦しい立場にいるすべての子どもたちの元に支援を届けるということです。実際、「誰ひとり取り残さない」ためには、それ以外の道はありません。また、支援を届けることで救われるのは、命だけではありません。「未来を救う」ことにもなります。な

ぜなら、現在の子どもの命を守り、最大限充実した人生を送れるよう支援することは、さらにその次の世代の子どもたちが自己実現できるよう後押しすることにつながるからです。つまり貧困の世代間連鎖を断ち切り、未来により公平な世界を築く助けとなるのです。

2016年、ユニセフは子どもたちの命と未来を守るため、目に見える成果を出すことを重視し、粘り強く努力を重ねました。最も支援を必要としている子どもたちとその家族の命を救うために、有効性の実証された支援を届けることに注力しました。購買力を活かしてワクチンの価格を低減することに尽力したほか、緊急事態下に置かれた子どもたちに必要な支援を提供し、勉強が遅れないよう学習教材の配布も行いました。さらに民族や性別、障がいなどを理由に社会から取り残されている子どもたちの権利を守る活動を行いました。

皆さまからのあたたかいご支援の結果、8,500万人以上の子どもにはしかの予防接種を実施し、重度の急性栄養不良に苦しむ子ども450万人の治療を行うことができました。また、紛争や自然災害に見舞われた2,900万人近くの子どものとその家族の安全な水を確認したほか、何百万もの移民や難民の子どもたちが教育や心理社会的サポートを受けられるようになりました。

支援活動を展開する各国の政府機関との協力の下、ユニセフは、公的な保健サービスをはじめとする基本的な社会サービス体制の強化に取り組んでいます。市民社会や民間企業の方々とも協力し、支援が届きにくい子どもたちやその家族にも手を差し伸べられるよ

右ページ：2016年リオデジャネイロオリンピックに参加した難民選手団に、声援を送るユニセフのアンソニー・レーク事務局長

うなイノベーション（技術革新）にも力を注いでいます。また、地域の方々と協力し、基本的な社会サービスへのアクセスを妨げている問題を特定し、解決策を見出す活動も進めています。さらに子どもや若者たちとも協力して、彼ら・彼女らの思いに応え、その意見が社会に届くよう支援しています。

本報告書では、実在する子どもたちのお話もご紹介しています。シリアの7歳の少年、アブドゥルは、ヨルダンの難民キャンプで生まれて初めて学校に通えるようになりました。大地震で家を失った、ネパールの当時妊娠9か月だったガンガ（20歳）は、地震で家を失った後、避難所で出産前ケアを受け、心の安らぎも得ました。ウルグアイの貧しい家庭に未熟児として生まれたジョエルは、栄養治療で一命を取り留め、その後のケアで健康も取り

戻しました。カンボジアの13歳の少女サヴィは、人身売買の被害に遭った子どものためのセンターに保護され、生活を立て直す一歩を踏み出すために必要なケアとカウンセリングを受けています。

たくさん子どもたちの人生をより良いものに変えるこうした支援を通じて、ユニセフは、前進は可能であること、そして、すべての命に計り知れない価値があることを世界に伝えていきます。私たちは、持続可能な開発目標（SDGs）が描く「より公正でより良い世界」が決して夢物語ではなく、実現可能な目標であることを証明したいと考えているのです。



アンソニー・レーク
ユニセフ事務局長



はじめに

70年。その先へ

@UNICEF: アドボカシー 2016 #FightUnfair.

6月、ユニセフは『世界子供白書 2016 (The State of the World's Children 2016)』を発表しました。これは、子どもたちの出自や背景に捉われないユニセフの取り組みが、いかに子どもたち一人ひとりの健康状態と教育環境を改善したかを詳しく分析した報告書です。また、報告書に合わせてユニセフ・ジョージア事務所からストーリーチルドレンをテーマにした動画を発表。この動画は、投稿後1週間も経たないうちに、ユニセフのフェイスブック上で1億4,000万回以上再生されました。

世界大戦の荒廃から立ち上がろうとしていた70年前、大戦を生き延びた何百万もの子どもたちにとって、平和への道は困難で、先行きは不安に満ちていました。こうした子どもたちを支援するために設立されたのが、現在のユニセフ（国連児童基金）の前身である国連国際児童緊急基金です。出自も背景も関係なく、すべての子どもが支援の対象となりました。設立間もないその機関は、困難な立場にある子どもたちのために成果を出すこと、それだけを重視していたのです。

現在のユニセフは、世界中に拡大したネットワークを通して、革新的な解決策や効果が実証された専門技術を提供しています。そして出自も背景も関係なく、世界中の子どもたちに成果の見える支援を今も届け続けています。支援から最も遠い子どもたちに手を差し伸べて支えること、そして最も社会から取り残された子どもたちを受け入れることに最大限の力を注いでいます。

2016年 成果の拡大

長年にわたってユニセフは、子どもの生存、初等教育就学、安全な水の確保などの分野で成果を上げてきました。特に過去30年の貢献は非常に大きなものと言えるでしょう。2016年も、皆さまのご支援が世界中で多大な成果を上げました。

ここ数年でも稀に見る大きな危険が子どもたちを襲った一年。世界中に広がった紛争や危機により、何百万もの人々が脅かされ、避難を余儀なくされました。さらに、多くの人々が貧困や暴力、搾取、そして差別に苦しんでいます。ユニセフが対応した人道危機だけでも、108カ国344件に上りました。

こうした危機のすべてにおいて、ユニセフは、安全な水や衛生、栄養や教育支援を提供する国連機関や現地の関係団体の活動を調整する主導的役割を果たしています。そして世界中に張り巡らせた独自のサプライチェーンを通して、正確かつ迅速に支援を届けています。

同じく重要なこととして、ユニセフは、危機が収束した後も現地に留まり、支援を続けていることが挙げられます。子どもたちの命を守ることはもちろん、分野横断的な保護、教育、誰もが受け入れられる（インクルーシブな）社会づくり、保健における取り組みを通して、子ども時代がより充実したものになるよう支援しているのです。また、災害復旧が長期的開発の基礎を築くと考えるユニセフでは、今後起こり得る危機や気候変動に備えられるよう地域への支援も進めており、子どもたちが将来にわたって十分に力を発揮できる環境づくりを後押ししています。

CHILDREN AND YOUTH IN FOCUS

雪はこわくない：セルビア、幼き難民のためのシェルター



欧州における移民・難民危機が、ユニセフ設立のきっかけとなった第二次世界大戦直後の危機をも凌ぐほど深刻な事態に発展した2016年。冬に向けて、ユニセフは政府機関と非政府組織（NGO）の両方と協力してシェルターや救援物資を提供し、難民を支援しました。

気温が下がる11月、4歳のナエデルちゃんの身体はすでに冷え切っていました。「ジャケットもブーツもないし、冬用の帽子もないよ」とベソをかくナエデルちゃんを前に、姉のゾラさん（15歳）は何か着るものはないかとベッドの下のバッグの中を引っかき回していました。

ナエデルちゃんとゾラさんはほかの2人の兄弟姉妹と共に、セルビア南西部シェニツァの一時収容施設で暮らしています。200人の難民が寝食を共にしていましたが、誰も冬服を持っておらず、

靴も夏用のサンダルしかありませんでした。

そこにユニセフのスタッフが到着します。欧州委員会人道援助・市民保護総局と日本政府の資金援助の下、靴と服を配布するために来たのです。ナエデルちゃんとゾラさんが配給場所に来たときには、すでに行列ができていました。子どもたちが新しいブーツと冬服一式を持って来るのを、二人は信じられない思いで見っていました。

ほんの少し前まで、汚れた毛布以外に寒さをしのぐものがない中でどうやって夜を過ごすかと考えていたのに、今では、暖かな青いブーツと色鮮やかなジャケット、冬用のズボンを手に入れることができたのです。少し前の途方に暮れた気持ちはすっかり忘れ、姉妹はまもなく訪れる初雪の日について夢中でおしゃべりし始めました。

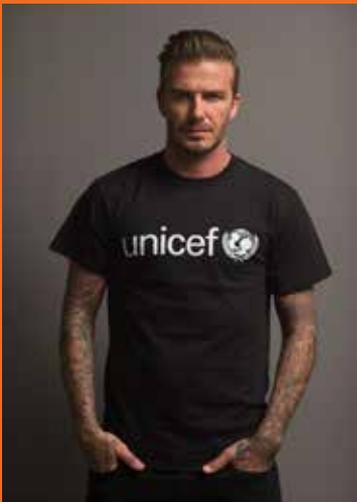
@UNICEF: アドボカシー 2016
#ChildrensDay.

ユニセフのアンソニー・レーク事務局長は、11月20日の「世界こどもの日」をすべての子どもの権利の保護を改めて誓う一年に一度の機会と位置づけ、暴力や虐待、搾取によって何百万もの子どもの権利が日々侵されている“不快な真実”に言及した上で、子どもたちの権利を守るからこそ“人類共通の未来”を守ることに繋がると訴えました。

左上：セルビア・シェニツァの収容施設で暖かい冬服を受け取る難民の子ども

@UNICEF: イノベーション 2016
#ENDviolence

12月、ユニセフ親善大使を務めるデイビッド・ベッカム氏が出演する動画が発表されました。肉体的・精神的虐待が子どもに一生消えない傷を残す可能性があるという残酷な現実が描かれ、衝撃を呼んでいます。このメッセージは、子どもや若者の声を幅広く発信するために開発された、携帯電話のメール機能を活用したツール「U-Report (ユー・レポート)」を通して数千人から寄せられた世論調査の回答を基に作成されました。



© UNICEF/UN041588/WILLIAMS

イノベーションとパートナーシップ

ユニセフは、費用対効果の高い手法を用いることで、資金が1円の無駄もなく、子どもたちの支援に使われるよう活動してきました。調達においても、予防接種用ワクチン、殺虫剤処理を施した蚊帳、栄養治療食の世界最大級の購入者として市場への影響力を発揮し、子どもの命を救うためのコストの引き下げに貢献しています。

また、最も行き届きにくい子どもたちや地域に支援を届けるため、イノベーションチームや企業などの協力で開発された新たな技術や製品も導入しています。

例えば、グーグル、IBM、テレフォニカの協力を得て開発した「Magic Box Initiative (マジックボックス・イニシアティブ)」は、リアルタイムで情報を収集・分析して緊急対応を改善するシステムです。また、携帯メールを活用したユニセフの「RapidPro (ラピッド・プロ)」は、妊産婦および子どもの死亡率の継続的な低減に

貢献しています。支援地域のひとつであるザンビアの農村部では、HIV陽性の母親が子どもの健康状態を確認する時間が半分に減りました。また、ユニセフの「Internet of Good Things (インターネット・オブ・グッドシングス)」は、40カ国以上でデジタルデバイド(情報格差)を解消しています。毎月の利用者数は100万人以上に達し、多くの人々がオフライン教育を受けたり、命を守るための情報を受け取ったりしています。さらに2016年には人道的利用を目的としたドローンの試験運用を実施し、マラウイにおいてHIV検査の結果を早く伝えたり、パキスタンにおいて携帯電話による出生届の迅速化を進めたりしました。

ユニセフでは、こうした有望なプロジェクトの開発に資金援助を行う基金として、ユニセフ・イノベーション・ファンドを設立すると共に、ユニセフ・グローバル・イノベーション・センターを通して最も効果的な取り組みの普及を進めています。

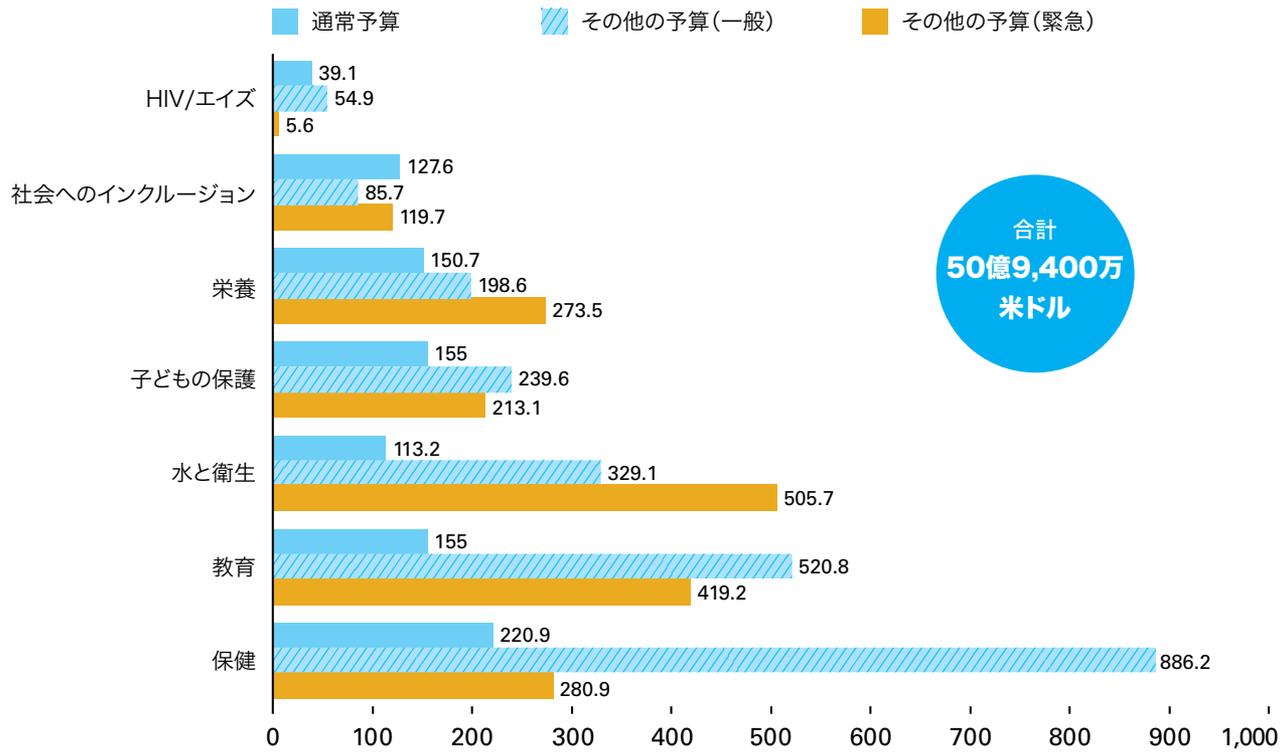


© UNICEF/UN016835/Noorani

右：ルワンダ・ギクンビ郡でユニセフの支援する魚の養殖池から網を引き揚げる女性たち

成果分野別の事業支出割合(2016年)

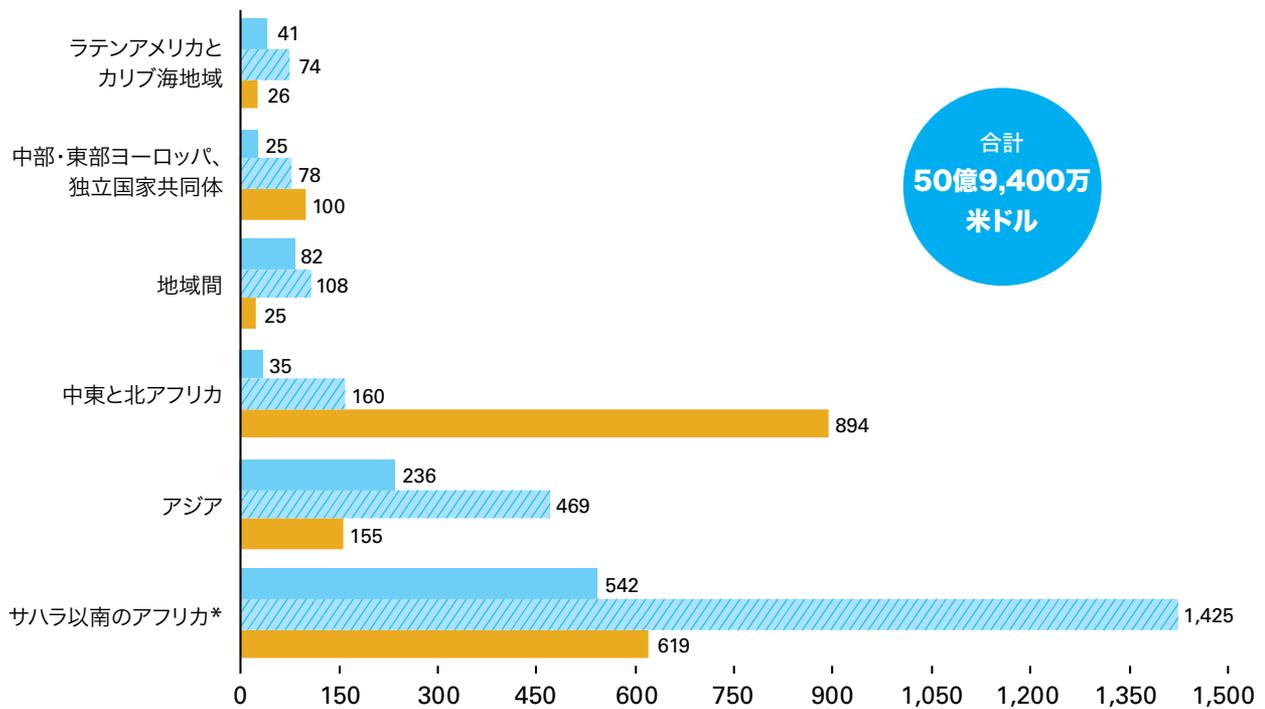
(単位:百万米ドル)



注:四捨五入のため、合計額は必ずしも一致しない。

地域別の事業支出割合(2016年)

(単位:百万米ドル)



*ジブチとスーダンへの事業支出は「サハラ以南のアフリカ」に含まれる。

注:四捨五入のため、合計額は必ずしも一致しない。

@UNICEF: アドボカシー 2016 #ForEveryChild.

12月、ユニセフは創設70周年記念イベントを開催し、すべての子どもに公平な機会を保証しようと呼びかけました。国連本部で行われた式典には、イシュマエル・ベア、デイビッド・ベツカム、オーランド・ブルーム、ジャッキー・チェン、アンジェリーク・キジョー、フェミ・クティ、プリヤンカー・チョープラー（最も直近に任命された国際大使）の各氏を含む、著名なユニセフ親善大使が参加しました。

参加と社会進出

ユニセフは、個人や民間の皆さまからお預かりするご寄付と各国政府からの任意の拠出金で運営されており、その活動の信頼性や公平性、実績の高さは、ご支援いただいている皆さま、協力関係にある方々から高い評価をいただいています。

ユニセフでは、日常的に子どもたちに影響を与える問題について検討を重ね、政策決定者やアドボカシー（政策提言）を行う専門家向けにそのポイントをまとめています。また、数百万人の方々にフォローいただいているソーシャルメディアを通じて、組織の活動に関する情報を世界中に広く発信しています。

さらに、移民・難民問題、子どもの生存、乳幼児期の子どもの発達、子どもに対する暴力など、子どもに重大な影響を与える問題に関してアドボカシー（政策提言）活動や情報発信、資金調達や市民参加の促進を総合的に進

めるための新たな枠組みも開始しました。このアプローチはすでに成果を上げ始めており、主要ターゲット層にメッセージを届けたり具体的な行動を呼びかけたりしています。

このようにユニセフは、世界で最も弱い立場にある子どもたちに影響を与えるさまざまな問題について、人々の意識向上と行動を促すさまざまな取り組みを実施しました。取り組みの詳細については各ページのコラム @UNICEF: アドボカシー 2016 をご参照ください。

ユニセフの取り組みの中でも特に重要なことは、若者の参加と社会進出を促進し、自分たちに関わる問題について自ら意見を述べ、意思決定に参加できるようにすることです。そうした支援を必要とする子どもや若者が、2016年はこれまで以上に世界各地で増加しました。ユニセフは、創設70周年を経た今も、すべての子どもたちに成果を出す支援を届けるために活動を続けています。



右：アメリカから自国のグアテマラに戻った移民労働者の子どもたち



ユニセフの支出総計（2016年） （単位：百万米ドル）

支出区分	
開発支援事業費	4,790
プログラム費	4,655
実効性向上事業費	135
管理・運営費	319
国連の開発支援事業に関わる連携調整費	7
特別な支出（設備投資を含む）	23
その他（民間部門との連携とパートナーシップを含む）	131
総支出	5,270

注：この表の区分別の支出は、修正現金主義に基づいて示されており、2016年に作成された現金支出や発注などの内部義務文書を反映している。

上：ユニセフのパートナー団体が運営する南スーダンのクリニックで、母親に笑いかける新生児の女の子